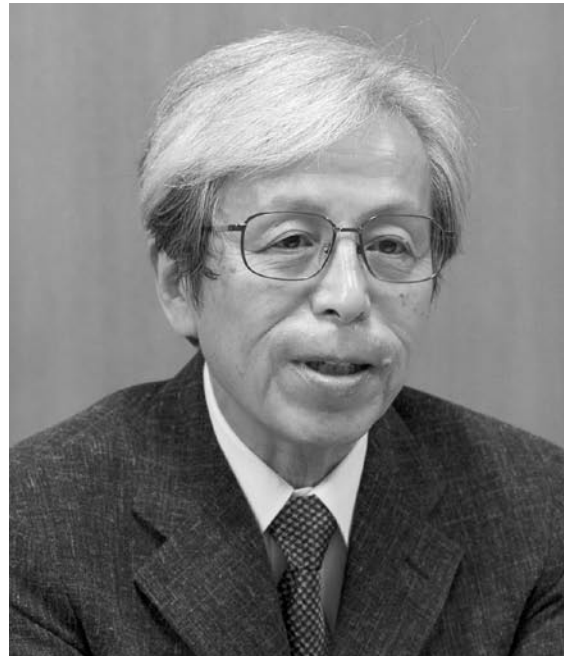


「つながる力 No.1」をめざして

大阪経済大学 学長

重森 暁



しげもり・あきら氏

1942年生まれ。
72年京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。
72年高知大学文理学部経済学科講師、73年同助教授、80年同教授。
83年大阪経済大学経済学部教授、84年同大学院経済学研究科教授、
88年京都大学経済学博士取得、04年より大阪経済大学学長。
現在、日本地方財政学会理事。
著書は、『地域と労働の経済理論』、『現代地方自治の財政理論』、
『分権社会の政治経済学』など多数。

本学の歴史は1932（昭和7）年の浪華高等商業学校の開設に始まり、2002年に創立70周年を迎えました。本学ではその2002年を改革元年と位置づけ、それ以降、「幅広い職業人の育成をめざす人間の実学教育の推進」を教育の基本目標として、さまざまな改革を実行してまいりました。

本学が志向する「人間の実学教育」とは何か。それには2つの側面があると考えます。ひとつは、実社会で具体的に役立つ知識や能力を修得するという側面、もうひとつは、良識ある市民としての人格形成という側面です。無論、専門知識の修得は不可欠です。しかしそれ以上にわれわれは後者の面を、すなわち人格形成という側面を重視したいと考えています。それは「生きる力」の涵養と言い換えることもできるでしょう。みずから目標を設定し、その実現に向けて努力する力を個々の学生に養いたい。そうした意図をさまざまなかたちで実践してきましたが、その中心的なものとして、キャリアサポートシステムという仕組みづくりに傾注してまいりました。

友人づくりから就職まで一貫サポート

キャリアサポートシステムとは、入学から卒業まで学生の4年間を一貫して支えるシステムで、学業や資格取得、就職などの多岐にわたるサポートにより、社会に通用するキャリアの獲得を支援するものです。

まず学生生活の充実には欠かせない「友人づくり」を応援するために、入学直後に新入生野外キャンプオリエンテーションを実施します。また自分を見つめ、将来を展望する「自己発見レポート」を1年次の4月に提出してもらい、4年間の学習や行動目標を明確にしてもらいます。1年次から2年次にかけては、コミュニケーション能力を磨いたり、キャリアデザインを考える各種キャリア講座が開催され、実践的な学びの充実

をはかります。3年次から就職に向けた活動が始まり、ゼミ単位の就職ガイダンスや各種就職講座のほか、夏季休暇中にインターンシップがおこなわれます。

時代に即した実学を追求するという使命により、本学はかなり早い段階からインターンシップに力を入れてまいりました。インターンシップ課という専門組織を持つ大学は珍しいのではないのでしょうか。2006年度は企業や自治体など232団体を受け入れ先として、469名の学生が現場で2週間ほど貴重な体験を積みました。前後12コマの講義と事後のレポート提出を課し、正課科目としての更なる充実をはかっています。

3年次後半からいよいよ就職活動が始まりますが、その支援のために、本学は「就職状況把握率100%」を目標として掲げています。進路支援センター（旧就職部）の職員とゼミ担当教員とがしっかり連携することで、すべての学生の状況把握に努めるのです。これにより2006年度は99%把握することに成功しました。2002年度が78%でしたから、努力が着実に実を結んできたといえるでしょう。学生の状況がわかれば、打つべき手段も見えます。躓いている学生をセンターに招き、本人の適性を見て新たな就職先を薦めることもできるのです。そうした個別指導により、就職率はこのところずっと90%台で推移しております。

教職員が学生一人ひとりと真剣に向き合い、親身になって考え、きめ細やかな支援をする。それがキャリアサポートシステムの根幹であり、「人間の実学教育」を推進するにあたり、本学がもっとも努力してきたポイントであるといえます。

財政的安定の中、さらなる改革を

キャリアサポートシステムの構築のほか、経済学部現代GP獲得や社会人大学院の盛況など、一連の改革にはある程度の手ごたえを感じております。また財務状況も、ここ数年外部から安定した評価をいただいております。しかしそれらをもって、もはや改善の余

地がないということにはなりません。学生一人ひとりの支援をつねに念頭に置っていますが、それが真の意味で達成されるにはまだまだ時間がかかるでしょう。教員一人あたり学生数は目標の50人をやや上回っており、満足できる水準とは思っていません。そしてもちろん、この厳しい学生募集環境下にあっては、安穩とされているはずなどありません。

大学全入といわれる時代になり、志願者を多く集める大学とそうでない大学とに二極化してきた観があります。そんな中、本学がこれから進む方向を社会に指し示す必要があると考え、163文字からなるミッション・ステートメントを定め、発表しました。これは「幅広い職業人の育成をめざす人間の実学教育の推進」について、より具体的に記述したものといえます。

また、今後の広報戦略における基本コンセプトとして、「つながる力 No.1」というキャッチフレーズも打ち出しました。こちらは本学らしさや強み、今後の目標を現す言葉として、学内外で今のところ良い感触を得ています。本学は学生数7400人程度で、マンモス私大という規模でもなく、かといってこぢんまりとした単科大学とも言い難い。その点、ある意味で適正規模の大学ではないかと思っています。学生同士はよく知り合い、教員と学生の関係もよく、職員同士の会話でも、学生の名前を出せば、「ああ、〇〇先生のゼミの…」という具合にお互いの顔が見えている人間関係があります。そんなところから、本学の「つながる力」をより強固にしたいと考えたのです。本学で出会い、交流し、お互いを高めあうような関係性を大切にしていきたい。学内外にこのコンセプトが浸透していくような広報活動を今後は展開していく予定です。

2012年に本学は創立80周年を迎えます。その時にどのような大学になっているのかはこれからその具体像を描いていかなければなりません。今以上に進化した大学となっているためには、一層の改革が必要となることは間違いありません。